資料紹介

「蘭方」医学資料解題①

福田舞子

はじめに

国立公文書館（以下、当館）所蔵資料の紹介や解題は、『北の丸』誌上に多数の蓄積がある。しかし、医学関係資料についてのまとまった解説は報告されておらず、調査の余地があると思われる。特に、内閣文庫中に明治以前の西洋医学関係資料が収められている点に着目したい。

幕府による西洋医学の教育・研究機関の創始は、伊東玄朴ら有志の蘭方医によって安政五年（一八五八）五月に設けられたお玉ヶ池種痘所に遡る。同所は万延元年（一八六〇）七月に官許を得て、幕府直轄となった。その後、文久元年（一八六一）に西洋医学所へ、同三年に医学所へと改称され、明治元年（一八六八）に明治政府に接収された。同年に医学校と改称。その後、幾度もの改称や学校機能と病院機能の合併等を経て、東京大学医学部へと繋がっている（東京大学医学部創立百年記念会・東京大学医学部百年史編集委員会編『東京大学医学部百年史』）。蔵書の多くは東京大学医学部に受け継がれたものと考えられている。なお、「医学校」「大学東校」等の印記が内閣文庫中に確認されることから、明治元年以後に医学校で保管されていた資料の一部は、内閣文庫に収納されたものと思われる（国立公文書館編『内閣文庫百年史』、『改訂増補　内閣文庫蔵書印譜』）。

以上を踏まえると、内閣文庫中に明治以前の西洋医学に関する資料が存在することは興味深い。そこで、当該資料の収蔵経緯を示す情報を整理し、既刊目録やデジタルアーカイブ掲載情報を補完し利用者に供することで、医学史研究の一助としたい。

対象とする資料は、『改訂　内閣文庫国書分類目録』（以下、『国書分類目録』）から抽出した。『国書分類目録』の「凡例」によると、同目録の分類は、昭和三五年（一九六〇）七月末時点で内閣文庫に含まれる和装本の悉皆調査を行い「世上に現存する古書の種類を考えて作られた「大東急記念文庫古書分類表」を基礎として、さらに本文庫所蔵図書の内容によって専門学者の意見を徴し、適切な改訂を加え」定められたものである（『改訂　内閣文庫国書分類目録』凡例一頁）。著者、冊数、出版年等の基本的な書誌事項は網羅されており、国立公文書館デジタルアーカイブの書誌情報も『国書分類目録』をベースに適宜加筆修正を施す形で作られている。以上のことから、『国書分類目録』は、令和七年現在において、内閣文庫に含まれる資料に関する最も基本的且つ包括的な目録と考えられる。

『国書分類目録』で「医学」に分類されるものは八〇四件。その内

訳は、「総記附史伝」四八件、「漢方」五一三件、「蘭方」六七件、「和方」一六件、「折衷方」一件、「近代医学」一三九件、「雑」二〇件である。冒頭で述べた明治以前の西洋医学に関する資料は、主に「蘭方」に収録されている。本稿の表題も、この分類に基づく。また、「蘭方」の分類中でさらに「（一）基礎医学」「（二）臨床医学」に分かたれている。紙幅の都合により、本稿では、「蘭方」六七件のうち「（一）基礎医学」三九件について紹介する。「（二）臨床医学」に収録された諸資料については、稿を改めて紹介したい。

凡例

・蔵書印をはじめとした収蔵経緯を示す情報、特に、『国書分類目録』に掲載されていない情報を重視し、資料概要は必要最低限に留めた。
・表紙に貼付された蔵書票等は、後世に付け替え可能であるため、書誌情報として重視されないことも多い。しかし、内閣文庫中には、明治政府の省局の蔵書票の上に貼り重ねる形で新たな蔵書票が貼付されている資料も多い。そのため、収蔵経緯を追うにあたって表紙から得られる情報の重要性は高いと考え、採録した。なお、現在も使用している「内閣文庫」の蔵書票は採録対象から除外した。
・資料の掲載順は『国書分類目録』に則った。『国書分類目録』への掲載順と、令和七年（二〇二五）時点で付与されている資料請求番号順は必ずしも一致しないが、理由は未詳。
・各資料冒頭に記した表題および旧蔵者は『国書分類目録』の表記に準じた。
・特に断りの無い限り、各資料の概要は以下の参考文献に依る。

『改訂増補　内閣文庫蔵書印譜』国立公文書館、一九六九年初版発行、一九八一年改訂版発行。
国立公文書館編『内閣文庫百年史　増補版』汲古書院、一九八六年。
日蘭学会編『洋学史事典』雄松堂出版、一九八四年。
福井保『内閣文庫本考証』青裳堂書店、二〇一六年。
洋学史学会監修、青木歳幸ほか編『洋学史研究事典』思文閣出版、二〇二一年。

・冊次は、〇囲みの数字で表した。
・●丁のオモテは●オと、●丁のウラは●ウと表した。丁数の表記については、資料に丁番号の記載がある場合は資料に従い、記載がない場合は丁数を数え補った。
・虫損や破損により判読不能な文字は□、資料に損傷はないが解読不能な文字は■、判読不能な文字数が不明な場合は［…］で表した。
・改行は／で表した。
・ミセケチは〻で表した。

【一】西説医範提綱釈義　三冊　教部省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二六五）

宇田川玄真（榛斎、一七六九―一八三四）が数種の蘭書をもとに著し、文化二年（一八〇五）に出版した書。解剖学から生理学、病理学まで網羅している。内容が医学一般にわたることから、当時、医学入門書として広く用いられた。

裏表紙見返しの青藜閣発行書肆目録には『理学入門植学啓原』（天保四年（一八三三）刊行）が確認される。『西説医範提綱釈義』の刊行年よりも後に出版された書の広告があることから、本書は、刊行年から

少なくとも二八年は経過した時期の刷であると判断される。

本書には「教部省文庫印」「宣教使」の印が確認される。「宣教師」の印は、明治二年一〇月、神道布教のため神祇官（明治四年八月神祇省と改称）に設けられた部局である宣教師で用いられた印である。同五年三月に神祇省が教部省と改称された折、宣教師は廃止された。以降、教部省が廃止され、教部省が担ってきた職務内容が新設の内務省社寺局に移行する同一〇年一月まで、「教部省文庫印」が用いられた。

なお、蔵書票「和書門」を貼り重ねたために判読不能となっている赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票は、【三五】に貼付された蔵書票「内務省図書」と同じデザインであることが確認された。判読不能となった本書の蔵書票もまた、「内務省図書」である可能性が高い。なお、本書には、印記「図書局文庫」が確認される。「図書局文庫」の印は、内務省図書局の蔵書印として明治一五年に作成され、同一八年の図書局廃止まで使用された。

印記「日本政府図書」は、明治一八年一二月の内閣制度発足により太政官文庫が内閣文庫に改称されたことに伴い、翌一九年二月に作成された。「日本政府図書」の印は、昭和七年まで用いられた。

以上から、本書は、明治二～五年の間に神祇官宣教師に収められ、宣教師廃止とともに教部省の蔵書とされ、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵され、明治一八年一二月に内閣制度発足に伴い設けられた内閣文庫に引き継がれたものと思われる。

・書誌情報

［外題］①～③題箋「医範提綱　一～三」

［内題］①～③一オ「西説医範提綱釈義巻之一～三」

［著者］①②③一オ「榛斎宇田川先生訳述　門人　勢州　諏訪俊士　徳筆記」

［法量］二五・七×一七・八糎

［墨付丁数］①三六、②三五、③二七

［表紙］焦茶色唐花型押表紙

［刊記］①序二オ「文化乙丑春三月／紫石　杉田勤識」、後序二ウ「文化乙丑桐月／若狭　杉田豫撰」、題言八オ「文化二年二月　厩堂　門人　諏訪俊謹記」、③裏表紙見返し「〇榛斎宇田川先生著述発行書目（書目省略）／書買　青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」

［印記］①扉魁星印・版元印、序一オ「宣教使」「教部省文庫印」「日本政府図書」「図書局文庫」

［蔵書票等］①表紙貼紙「共三本　百廿八」、①②③蔵書票「和書門」（斜線により取消）／類／四三〇九七号／一三六函／八架／三冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）

［刊写］刊

【二】西説医範提綱釈義　三冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二六六）

資料の概要については【一】を参照のこと。

本書は、蔵書印から明治一二年に購入されたものであることがわかる。墨書にある「樋口氏」については未詳。

『西説医範提綱釈義』の刊行年は文化二年だが、裏表紙見返の広告に天保八年刊行の『舎密開宗』が紹介されている。【一】よりさらに後

年、刊行から三〇年以上後に刷られたものであると判断される。

本書には、「衛生局」の蔵書票が貼付されている。衛生局は、明治七年八月に一般衛生や医術開業免許等の規則を定めた医制が発布されたことに伴い、翌八年七月、医事行政を担う部局として内務省に設けられた。昭和一三年一月の厚生省設立に伴い衛生局は厚生省の所管となった（新村拓編『日本医療史』）。衛生局は、同二一年一一月、衛生局に代えて公衆保健局・医務局・予防局の三局が置かれるまで存立した（厚生省五十年史編集委員会編『厚生省五十年史（記述篇）』）。

印記「大日本帝国図書印」は、内務省図書局の印として、明治九年八月から、同一五年六月に「図書局文庫」の印が新刻されるまで用いられた。内務省図書局の職掌には、出版許可や納本、保存も含まれる。本書の収蔵経緯が納本ではなく購入であることは、印記「明治十二年購求」によって確認された。まずは内務省図書局が購入の手続きを行って購入図書を収納し、その後、同局衛生局にて職務のために保管されたものと推察される。

・書誌情報

［外題］①～③題箋「医範提綱　一～三」

［内題］①～③一オ「西説医範提綱釈義巻之一～三」

［著者］①②③一オ「榛斎宇田川先生訳述／門人　勢州　諏訪俊士徳筆記」

［法量］二五・六×一七・八糎

［墨付丁数］①三六、②三五、③二七

［表紙］焦茶色無地表紙

［刊記］②序二オ「文化乙丑春三月／紫石　杉田勤識」、後序二ウ「文化乙丑桐月／若狭　杉田豫撰」、題言八オ「文化二年二月厩堂　門人　諏訪俊謹記」、③裏表紙見返し「東都書林青藜閣発行医書豫顕目録／（書目省略）／書買　青藜閣　江戸浅草茅町　二丁目　須原屋伊八」

［印記］①扉魁星印・版元印、①序一オ・②③一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「内務省図書／第三三四九番／部　号／三冊」「衛生局　第五号　呂ノ筐」「［…］　一冊」、①②③「和書門／　類／二九五二三号／一三〇函／九架／三冊」（斜線により取消）

［刊写］刊

［その他］墨書書入れあり（①題言三丁オ「礼記云良治之子必学為裘良弓之子必学為箕」、裏見返「樋口虎氏」、②裏見返「樋口氏」、③見返「樋口氏」）。不審紙あり。①地に墨をこぼしたと思われる染みあり。特に①は丁をめくる際に触れる角の摩耗が著しい。

【三】〔医範提綱内象銅版図〕　一冊　教部省旧蔵

（請求番号　一九五-〇三六七）

冒頭の「西哲　勃郎合爾都　肖像」には手術台が描かれている。これは、オランダの医師ブランカールト（Stevan Blankaart, 1650–1704）の解剖学書（*De nieuw hervormde anatomie*, 1696.）の扉絵の模写と考えられる。扉絵左下に添えられた一文によると、扉絵の銅版画は亜欧堂田善（一七四八―一八二二）の門人新井令恭の手による。ただし、第五十一図の脇に「亜欧堂鐫」とあることから、収録された解体図各図は田善本人の手による銅版画と推察される。

蔵書票「和書門」に記された書架の番号を除き、印記、蔵書票とも

に【一】と同一である。資料の性質からも、本書は【一】「西説医範堤綱釈義」と併せて一揃えのものと扱われていた可能性が高い。

・書誌情報

［外題］墨書打付け「解体新書図」

［内題］なし

［著者］凡例「藤井俊芳亭謹記」、扉絵「右一面亜欧堂門人新井令恭鐫」、第五十一図「亜欧堂鐫」

［法量］全長三〇・二×七六八・〇糎（折り畳み時三〇・二×二一・五糎）

［表紙］多色刷唐花唐草

［刊記］凡例「文化戊辰之春三月　門人勢州藤井俊芳亭謹記」、扉「文化戊辰春新刻／西哲　勃郎合爾都　肖像／右一面亜欧堂門人新井令恭鐫」、第五十一図「亜欧堂鐫／風雲堂蔵」、奥付「文化戊辰春三月／紫石　杉田勤／芳水　武田信任宋宇之」

［印記］凡例「図書局文庫」「宣教師」「教部省文庫印」「日本政府図書」

［蔵書票等］表紙貼紙「百廿八」、蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／四三一二二号／一三六函／九架」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）

［刊写］刊

［その他］折本。装丁は所蔵者により張替えられた可能性もある。内題は失われ、凡例が冒頭に来ている。

【四】解体発蒙　四冊　昌平坂学問所旧蔵

（請求番号　一九五-〇二七二）

漢蘭折衷派の医師三谷樸（公器、一七七五―一八二三）が、杉田玄白（一七三三―一八一七）らによる日本初の本格的な西洋解剖書の訳書『解体新書』（一七七四）を批判した書。『解体発蒙』の書中で、樸は、蘭方医学、特に解剖学の精緻さを認めつつも、『解体新書』では東洋医学が得意とする身体全体の調和をはかる姿勢が見失われている、と批判した。

『国書分類目録』において、本書が「折衷方」あるいは「漢方」ではなく、「蘭方」に分類された理由は未詳。

本書には、印記「番外書冊」「昌平坂」が確認される。いずれも、昌平坂学問所の蔵書に捺されたものである。「番外書冊」は、同所蔵書のなかでも、慶長年間（一五九六～一六一五）以後の撰述のうち地誌・記録以外の国書の多くに捺された印である。漢方医学の教育研究機関である幕府医学館や、安政二年に洋学研究機関として設けた洋学所（翌年、蕃書調所と改称）に収蔵されても不思議ではなかったと思われるが、本書の性質上、漢方医学とも蘭方医学とも分類し難く、昌平坂学問所の番外書とされたものと推察される。

印記「浅草文庫」は、明治七年七月に開設された官立の公開図書館浅草文庫の蔵書に捺されたものである。浅草文庫は、同五年八月に昌平坂学問所および和学講談所の旧蔵書を中心に明治政府が開設した公開図書館である書籍館を前身とする。同一四年五月に閉鎖し、蔵書の大部分は内務省所管を経て内閣文庫に引き継がれた。本書の印記は、昌平坂学問所から浅草文庫へ、浅草文庫から内閣文庫へ、という変遷をよく表している。

・書誌情報

［外題］①～④題箋「藏府真写／解体発蒙　一～四」、①④題箋の下部が破損している。

［内題］①～④一オ「解体発蒙巻之一～四」

［著者］①～④一オ「江北　笙洲先生　三谷樸　公器　著／門人　村松侍医　藤　玄秀光明・仙台法橋　源　準　玄吉・松山医士　晁憲章典卿　同較」

［法量］二五・二×一七・五糎

［墨付丁数］①三〇、②三〇、③三一、④三二

［表紙］砥粉色氷割れ雲母刷表紙

［刊記］①扉「文化癸酉新鐫／笙洲先生著　不許翻刻千里必究／解体発蒙／浪華書肆　岡田群玉堂」、序四ウ「文化庚午春三月／典薬寮医員朝散大夫／長門守和気惟亨誌」、序八オ「文化己巳冬平安高橋篤之撰」、後序三ウ「文化己巳冬平安奥之基識」

［印記］①表紙「番外書冊」、序「昌平坂」「日本政府図書」「浅草文庫」「国朝医統学脈拙家」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「医療摂養」「医書五ノ一」「和書門」（斜線により取消）／類／二四九八四号／六七函／一一架／四冊」

［刊写］刊

［その他］各臓器の彩色図（多色刷り）あり。

【五】重訂解体新書　一四冊（本編一三冊、図編一冊）　教部省旧蔵（請求番号　一九五-〇二七〇）

ドイツの医師クルムス（Johan Adam Kulums, 1689–1745）の『解剖学表』（*Anatomische tabellen*, 1722）のオランダ語訳版を杉田玄白らが翻訳出版した『解体新書』に、一関藩医の大槻玄沢（一七五七―一八二七）が改訂を施し出版したもの。『解体新書』刊行にあたって、まずは世に出すことを優先したため不完全さが残ったことが気がかりであった玄白から、同書の改訂を託された玄沢により出版されたとされる。

蔵書票「和書門」が貼り重ねられたことで判読不能となった蔵書票は、そのデザインから、「内務省図書」の蔵書票と推察される（【一】参照）。

印記「宣教師」から、本編および附録編（①～⑬）は明治二～五年の間に教部省宣教師に収納された可能性が高いと判断される。また、印記「図書局文庫」から、明治一三年当時、内務省図書局にて所蔵されていたことがわかる。図版編（⑭）は、印記「明治十三年購求」から明治一三年に購入されたことがわかる。以上より、当初は①～⑬のみであったが、のちに⑭が追加購入されたものと考えられる。

・書誌情報

［外題］①題箋「重訂解体新書　序　旧序　附言　凡例」、②～⑤題箋「重訂解体新書　巻之一～四」、⑥「重訂解体新書　巻一名義解上　巻之五」、⑦「重訂解体新書　巻一名義解下　巻之六」、⑧「重訂解体新書　巻二名義解　巻之七」、⑨「重訂解体新書　巻三名義解上　巻之八」、⑩「重訂解体新書　巻三名義解下　巻之九」、⑪「重訂解体新書　巻四名義解　巻之十」、⑫「重訂解体新書　附録上　巻之十一」、⑬「重訂解体新書　附録下　巻之十二」、⑭「重訂解体新書銅版全図」

［内題］①序一オ「重訂解体新書序」、②～⑤一オ「重訂解体新書巻

之一～四」、⑥⑦一オ「本編／巻一／翻訳新定名義解上・下」、⑧一オ「本編／巻二／翻訳新定名義解」、⑨⑩一オ「本編／巻三／翻訳新定名義解上・下」、⑪一オ「本編／巻四／翻訳新定名義解」、⑫一オ「重訂解体新書附録上」、⑬一オ「重訂解体新書附録下／講譽餘漫筆之一　今為附録下巻」

［著者］②～⑤一オ「遠西　玉函　亜聃　鳩盧模斯撰述／日本　若狭小浜　玄白杉田翼翻訳／東奥仙台　玄沢大槻茂質重訂」、⑥～⑬一オ「玄沢　大槻茂質　述」

［法量］①～⑬二五・二×一七・七糎、⑭全長九五四・二糎（折り畳み時二六・八×一八・四糎）

［墨付丁数］①二六、②三九、③三一、④三二、⑤三一、⑥三五、⑦四〇、⑧四二、⑨三九、⑩四七、⑪四二、⑫三八、⑬四〇、⑭折本一帖

［表紙］①～⑬緑色菊花文艶出表紙、⑭焦茶色唐草表紙（木製の表紙に紙で装丁）

［刊記］①扉「文政九年丙戌孟秋刻成／杉田玄白先生新訳　大槻玄沢先生重訂／重訂解体新書／東都書肆　千鐘房発行」、附言一〇オ「寛政十年戊午之春　大槻茂質謹識」「安永元年壬辰之秋　杉田翼識」「寛政十年歳在戊午孟夏　翼再識」、②附言三ウ「西洋暦一千七百三十年／和蘭　業蠟盧杜斯　日古登　訳／日本安永二年龍次癸己／若狭　杉田翼玄白　重訂／文化改元甲子冬至僊台　大槻茂質玄沢謹校」

［印記］①序一オ「宣教師」「図書局文庫」「教部省文庫印」「日本政府図書」「■（猪カ）野蔵書之記」、⑭扉「明治十三年購求」「日本政府図書」「■■霞堂」「■」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門／（斜線により取消）　類／四三一二二号／一三六函／九架／一四冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）、②表紙貼紙「共拾三本　百廿八」、⑭表紙蔵書票「和書門／（斜線により取消）　類／二八六二二号／一二三函／八架／一冊」

［刊写］刊

［その他］①内題について、通常は序等ではなく本論の内題冒頭から採録するが、①には本論が収録されていないため、巻頭から内題を採録した。⑭図表篇が台紙に貼付され、折本に仕立てられている。朱墨書き込み多数。

【六】重訂解体新書　一三冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二七四）

資料の概要については【五】を参照のこと。

印記が示す購入年次、および蔵書票が示す旧蔵者（内務省衛生局）から、「重訂解体新書」の図版のみを抜粋収録した【七】とあわせて一揃えのものとして扱われていた可能性がある。

・書誌情報

［外題］①題箋「重訂解体新書　序　附言　旧序　凡例」、②～⑤題箋「重訂解体新書　巻之一～四」、⑥「重訂解体新書　巻一名義解上　巻之五」、⑦「重訂解体新書　巻一名義解下　巻之六」、⑧「重訂解体新書　巻二名義解　巻之七」、⑨「重訂解体新書　巻三名義解上　巻之八」、⑩「重訂解体新書　巻三名義解下　巻九」、⑪「重訂解体新書　巻四名義解　巻之十」、⑫「重訂解体新書　附

録上　巻之十一」、⑬「重訂解体新書　附録下　巻之十二」
［内題］①序一オ「重訂解体新書序」、②～⑤一オ「重訂解体新書巻之一～四」、⑥⑦一オ「本編／巻一／翻訳新定名義解上・下」、⑧一オ「本編／巻二／翻訳新定名義解」、⑨⑩一オ「本編／巻三／翻訳新定名義解上・下」、⑪一オ「本編／巻四／翻訳新定名義解」、⑫一オ「重訂解体新書附録上」、⑬一オ「重訂解体新書附録下／講譽餘漫筆之一　今為附録下巻」
［著者］②～⑤一オ「遠西　玉函　亜聃　鳩盧模斯撰述／日本　若狭小浜　玄白杉田翼翻訳／東奥仙台　玄沢大槻茂質重訂」、⑥～⑬一オ「玄沢　大槻茂質　述」
［法量］二五・八×一七・八糎
［墨付丁数］①二六、②四〇、③三一、④三二、⑤三一、⑥三五、⑦四〇、⑧四二、⑨三九、⑩四七、⑪四二、⑫三八、⑬四〇
［表紙］濃緑色花唐草型押表紙
［刊記］①扉「文政九年丙戌孟秋刻成／杉田玄白先生新訳　大槻玄沢　先生重訂／重訂解体新書／東都書肆　千鐘房発行」④後序三ウ「文政甲申仲春」、⑬裏表紙見返し「文政九年丙戌秋七月発兌／書肆　京都寺町通松原下ル町　勝村治右衛門／同三条通寺町西へ入町　丸屋善兵衛／大阪心斎橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門／江戸日本橋通壹町目　須原屋茂兵衛」
［印記］①序一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」②序例一オ「明治十二年購求」「幾石履印」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」
［蔵書票等］②表紙蔵書票「内務省図書／第三三四〇番／　部　号／十二冊」「衛生局　第九号　伊［…］」「和書門／（斜線により取消）　類／二二七〇九号／　函／　架／附共一三冊」
［刊写］刊
［その他］①序・附言・旧序、②～⑤巻之一～四、⑥～⑪名義解、⑫⑬附録。不審紙あり。①内題について、通常は序等ではなく本論の内題冒頭から採録するが、①には本論が収録されていないため、巻頭から内題を採録した。

【七】重訂解体新書　一冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二六九）

資料の概要については【五】を参照のこと。
『重訂解体新書』の解剖図の冊のみ。資料の状態から、本編と図版編で分けて出版されたものと推察される。表紙に衛生局の蔵書票、および内閣文庫蔵書票の下に内務省のものと思われる蔵書票が確認される。印記が示す購入年次および蔵書票が示す旧蔵者が同一であることから、【六】『重訂解体新書』本編と一揃えで扱われていた可能性が高い。

・書誌情報
［外題］題箋「鳩盧暮斯解体図」
［内題］なし
［著者］記載なし
［法量］二七・〇×一八・七糎
［墨付丁数］二三
［表紙］灰色格子刷毛目表紙
［刊記］なし

［印記］一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」「図書局文庫」
［蔵書票等］表紙蔵書票「衛生局　第十四号　伊ノ函」「和書門（斜線により取消）／類／二二六三三号／　函／　架／一冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）
［刊写］刊
［その他］一オ解剖図扉絵「鳩盧暮斯解体譜／天真楼翻刻／芝蘭堂再鐫／千鐘房発行／浪華中端」。後序や刊記は失われている。印記の位置や装丁から、明治一二年の購入時にはすでに後序や刊記を欠いた状態であったと推察される。墨書書き込みあり。

【八】利摂蘭度人身窮理　三冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二七八）

本資料の底本は、フランスのリシュラン（Anthelme Richerand, 1779-1840）による生理学書の第九版を、オランダの外科医ファン・エルペキュム（A. van Erpecum）がオランダ語訳したもの。ファン・エルペキュムによるオランダ語訳版から、医師・蘭学者の広瀬元恭（一八二一―一八七〇）が日本語に翻訳した。

印記から、明治一三年に購入され、内務省図書局に収納されたことがわかる。

・書誌情報
［外題］①～③題箋「利摂蘭度人身窮理書　一～三」
［内題］①～③一オ「利摂蘭度人身窮理巻之一～三」
［著者］①扉「広瀬元恭訳」、一オ「広瀬恭礼卿　再訳」
［法量］二六・〇×一七・〇糎
［墨付丁数］①四六、②二五、③四一
［表紙］紺色雲文型押表紙
［刊記］①扉「安政三年丙辰初冬官許」
［印記］①扉に版元印・魁星印あり、序一オ「■■政■蔵書之記」「■堂」「日本政府図書」、題言一オ「大日本帝国図書印」「明治十三年購求」、②③一オ「■■政■蔵書之記」「■堂」「日本政府図書」「大日本帝国図書印」「明治十三年購求」
［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／二八六一五号／八八函／四架／三冊」
［刊写］刊

【九】全体新論　二冊　昌平坂学問所旧蔵
（請求番号　一九五-〇二七三）

イギリスの宣教医ホブソン（Benjamin Hobson, 1816-1873）（中国名は合信または霍浦孫）が、中国における医療伝道活動に携わりつつ執筆した解剖書。咸豊元年（一八五一）に上海で刊行。日本にも伝来し和刻版が作成され、広く参照された。

本資料は、安政四年に作成された和刻版。【一〇】には挿図が確認されるが、本書は挿図を欠く。

医学館や蕃書調所ではなく昌平坂学問所に収められた経緯を明らかにするには至らなかったが、イギリスの宣教使が西洋医学を漢文体で著した書であるため、分類に難儀したものと思われる。

・書誌情報
［外題］①②題箋「全体新論　乾・坤」
［内題］①一オ「全体新論」
［著者］①一オ「西国医士合信氏著　南海陳修堂同撰」
［法量］二六・八×一八・二糎
［墨付丁数］①三九、②三五
［表紙］萌黄色無地表紙
［刊記］①表紙見返し「安政四丁巳晩冬／清本翻刻／全体新論／越智蔵版」、②後付「安政四丁巳年晩冬新雕／三都発兌書肆／江戸須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／大坂　秋田屋太右衛門／京都　若山屋茂助／勝村治右衛門」
［印記］表紙・巻尾「昌平坂学問所」（墨印）、序一オ「浅草文庫」「日本政府図書」
［蔵書票等］①表紙墨書「共三本」、②表紙蔵書票「漢書門（斜線により取消）／　類／五六八九号／一二函／一四架」
［刊写］刊
［その他］扉と序の間に、合紙一丁あり。

【一〇】全体新論　二冊　教部省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二七一）

資料の概要については【九】を参照のこと。

【九】では挿図を欠くが、本書では各論の冒頭に論と対応する図版が収録されている。

印記から、明治二～五年の間に神祇官宣教師に収められ、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵されたことがわかる。また、蔵書票「漢書門」が貼り重ねられたことで判読不能となった蔵書票は、そのデザインから「内務省図書」の蔵書票と推察される（【一】参照）。

・書誌情報
［外題］①②題箋「全体新論　乾・坤」
［内題］①一オ「全体新論」
［著者］①一オ「西国医士合信氏著　南海陳修堂同撰」
［法量］二四・八×一七・五糎
［墨付丁数］①五〇、②四六
［表紙］黄檗色卍繋ぎ型押表紙
［刊記］①扉「安政四丁巳晩冬／清本翻刻／全体新論／越智蔵版」、②後付「安政四丁巳年晩冬新雕／三都発兌書肆／江戸　須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／大坂　秋田屋太右衛門／京都　若山屋茂助／勝村治右衛門」
［印記］序一オ「宣教師」「日本政府図書」「教部省文庫印」「図書局文庫」、巻尾「図書局文庫（斜線により取消）」
［蔵書票等］①②表紙蔵書票「漢書門／　類／五六九〇号／一二函／一四架／二冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）、①貼紙「共弐本／百廿八」
［刊写］刊
［その他］本文中、各論の冒頭に図版あり（乾の巻巻頭に三丁（一甲・乙・丙）、尻骨盤及足骨論冒頭に二丁（十甲・乙）、脳為全体之主論冒頭に三丁（十六甲・又甲・乙）、眼官部位論冒頭に二丁（二十二甲・乙）、耳官妙用論冒頭に一丁（三十一）。坤の巻、

手鼻口官論冒頭に一丁（三十四）、臓腑功用論冒頭に二丁（三十八甲・乙）、心経冒頭に三丁（四十六甲・乙・丙）、肺経冒頭に一丁（五十二）、内腎経冒頭に一丁（五十七）、外腎経冒頭（六十甲・乙・丙）。

【一一】生理発蒙　一四冊

（請求番号　一九五-〇二七六）

原著は、オランダの医師リバック（Douwe Lubach, 1815-1902）が一八五五年に出版した生理学書。島村鼎甫（一八三〇―一八八一）が翻訳し、校訂は鼎甫の門人らが行った。全一四巻（本編一三巻および図編一巻）。人体の生理学に関する書であるが、図編には臓器の図だけでなく、実験器具や当時の血圧計などが掲載されているのも特徴的である。

印記「大史局印」は、明治二年七月の太政官制改正によって設けられた大史局で用いられた。大史局は文書事務を担い、新刊書の准刻事務や紅葉山文庫本の管理も兼ねたが、同四年八月に廃止された部局である。よって、印記から、本書は明治二年七月から同四年八月の間に収められたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①～⑭題箋「生理発蒙　一～十四」

［内題］①～⑬「生理発蒙巻之一～十三」、⑭内題なし。

［著者］①提要一オ「和蘭　李邈氏　撰／阿波　島村鼎鉉仲　訳、動植区別二十四ウ「生理発蒙巻之一終　飯田　太田成用良瑞校」。②骨骼四十二ウ「生理発蒙巻之二終　長岡　建部確介石校」。③飲食消化四十一オ「生理発蒙巻之三終　長岡　亀倉貞徳修平校本」。④血脈運行四十六ウ「生理発蒙巻之四終　新見　管廣廣斎　校本」。⑤新陳代謝三十三ウ「生理発蒙巻之五終　宮津　髙橋順安　校本」。⑥分泌二十二ウ「生理発蒙巻之六終　長岡　建部確介石　校本」。⑦神経功用三十二ウ「生理発蒙巻之七終　古河　横山重遠草玄校」。⑧眼官上三十五オ「生理発蒙巻之八終　沼津　柳下幹貞橘校」。⑨耳官四十二ウ「生理発蒙巻之九終　勝山　河野貞貫道校」。⑩筋肉運動三十四ウ「生理発蒙巻之十終　信州　武居助信子順　校本」。⑪脳脊髄功用三十四ウ「生理発蒙巻之十一終　岡山　髙山盛周徳校」。⑫生後発育三十三ウ「生理発蒙巻之十二終　信濃　武居助信子順　校」。⑬體器老廃二十四ウ「生理発蒙巻之十三大尾　備前　平松蘐研介　校」。⑭十四ウ「彫工竹口茂兵衛」。

［法量］二二・八×一五・五糎

［墨付丁数］①三二、②四三、③四一、④四七、⑤三三、⑥二三、⑦三二、⑧三五、⑨四三、⑩三四、⑪三五、⑫三三、⑬二八、⑭一四

［表紙］紺色卍繋ぎ艶出表紙

［刊記］①扉「島村鼎甫訳述／生理発蒙／慶応丙寅初冬新鐫　五松楼蔵版」、②④⑥⑨⑪⑬裏表紙見返し「整理発蒙　全部　図式共十四巻／書肆／京都寺町通松原下ル　勝村治右衛門／大阪心斎橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛／江戸浅草茅町弐丁目　須原屋伊八」

［印記］①表紙「大史局印」。扉に版元印・魁星印、「初編」。序一オ「大史局印」「日本政府図書」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／一四〇一五号／四六函／一一架／一四冊」
［刊写］刊
［その他］⑬巻末に「生理発蒙全編改正附録」。①～⑬本文、⑭付　図。⑭裏表紙に切り取られた痕あり。

【一二】病学通論　三冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八〇）

緒方洪庵（章または公栽、一八一〇―一八六三）訳述。嘉永二年（一八四九）刊。全三巻。当初は全一二巻の構想であったが、生機論および疾病総論一・二の刊行に留まった。

印記および表紙に貼付された蔵書票の情報から、明治一二年に購入され、内務省衛生局で保管されたことがわかる。

・書誌情報
［外題］①～③題箋「病学通論　一～三」
［内題］①～③一オ「病学通論巻之一～三」
［著者］①一オ「足守　緒方章公栽　訳述」
［法量］二六・一×一八・二糎
［墨付丁数］①三五、②四〇、③二二
［表紙］焦茶色無地表紙
［刊記］①扉「嘉永二年己酉初夏新雕／洪庵緒方先生訳本／病学通論／適適斎藏　青藜閣発兌」。③裏表紙見返し「安政四年丁巳初秋／三都書賈／京二条通柳馬場　若山屋茂助／江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛／同二丁目　山城屋佐兵衛／同芝神明前岡田屋嘉七／同浅草茅町二丁目　須原屋伊八／大坂心斎橋通北久宝寺町　秋田屋治助／同安堂寺町北エ入　秋田屋善助／同安堂寺町南エ入　秋田屋太右衛門」
［印記］①扉に版元印・魁星印あり、「初篇」。序一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」（印記「日本政府図書」は丸印の上から重ねて押印されたことがわかるが、下の丸印は判読不能）
［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／二九五二六号／　函／架／三冊」「内務省図書／第三三四三番／部　号／三冊」「衛生局　第六号　呂ノ筐」「［…］冊」
［刊写］刊
［その他］版心「適適斎藏」。①表紙蔵書票「衛生局　第六号　呂ノ筐」の下に別の貼紙があるが、上部は衛生局の蔵書票で隠れ「冊」しか読み取れない。③巻末に広告（書目省略）あり。

【一三】遠西名医扶歇蘭度察病亀鑑　三冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二七九）

本資料の底本は、ドイツ人医師フーフェランド（Christoph Wilhelm Hufeland, 1762-1836）の著した『医学必携』の第二版から、オランダのハーヘマン（H. H. Hageman Jr., 1813-1850）がオランダ語訳したもの。日本においては蘭学者によって一部分ずつ抄訳・出版された。邦訳されたものとしては、緒方洪庵『医戒』『扶氏経験遺訓』、青木浩斎『察病亀鑑』、山本致美『扶氏診断』などが知られる。本書は青木浩斎（一八一四―一八八三）によって抄訳されたもの。

印記および表紙に貼付された衛生局の蔵書票から、明治一二年に購

入され、内務省衛生局で保管されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①～③題箋「遠西名医扶歇蘭度察病亀鑑　上・中・下」
［内題］①～③一オ「遠西名医扶歇蘭度察病亀鑑巻之上・中・下」
［著者］①～③一オ「遠西孛漏生　国名　国政参議侍医兼／別爾列印　都名　大学校教頭　扶歇蘭度　著／和蘭　哈傑満　訳／因州　青木坦浩斎　重訳」
［法量］二五・六×一八・〇糎
［墨付丁数］①二八、②三九、③三〇
［表紙］焦茶色唐花艶出表紙
［刊記］①扉「安政四年丁巳仲秋新彫／青木浩斎訳本／遠西名医扶歇蘭度察病亀鑑／含章軒蔵」
［印記］序一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／二九五二五号／　函／　架／　冊」「内務省図書／第三三四三番／三冊」「衛生局　第七号呂ノ筐」「［…］冊」
［刊写］刊

【一四】養生法　二冊　文部省旧蔵

（請求番号　一九六-〇〇〇八）

医師松本良順（順、一八三二―一九〇七）が、西洋医学書のなかから日本の気候風土に合った健康法を選び紹介した書。注釈は、良順の実父佐藤泰然（一八〇四―一八七二）の義兄山内豊城による。「凡例」には、外国語の音訳や馴染みのない訳語では伝わりづらいため、日本人の生活に浸透している「養生」という語を用いた旨が記されている。元治元年（一八六四）刊。全二冊。

印記「文部省書庫」は、明治四年七月に太政官制の一省として設けられた文部省に収蔵されたことを示す。同年同月、大学東校が東校と改称され、文部省の所管とされた。なお、東校は、翌五年八月に第一大学区医学校と改称されたため、裏表紙見返しの刊記「東校／官版御用所（中略）発行書肆　英蘭堂　東京　馬喰町二丁目　島村利助」から、本書が明治四年七月から翌五年八月の間に刊行されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①②題箋「養生法　上・下」
［内題］①一オ「養生法」
［著者］①一オ「侍医医学校教頭蘭疇松本良順誌／隠士楽斎山内豊城校閲補註」
［法量］二二・五×一五・〇糎
［墨付丁数］①二七、②三〇
［表紙］縹色卍繋ぎ艶出表紙
［刊記］①扉「侍医法眼松本良順誌　隠士山内豊城侯補注／養生法／作楽戸蔵」、②裏表紙見返し「東校／官板御用所／軍医寮／官板御用所／海軍病院／官板御用所／発行書肆　英蘭堂　東京　馬喰町二丁目　島村利助」
［印記］①扉に版元印、一オ「日本政府図書」「文部省書庫」、二十六ウ「日本政府図書」

［蔵書票等］①②表紙蔵書票「太政官文庫（斜線により取消）／和書門／一〇五一二号／二七函／三架／二冊」
［刊写］跋刊
［その他］②巻末「英蘭堂発兌書目録（書目省略）」「大学東校官版之部（書目省略）」あり。

【一五】養生法　二冊　教部省旧蔵
（請求番号　一九六-〇〇〇九）

資料の概要については、【一四】を参照のこと。
印記から、明治二～五年の間に神祇官宣教師に収められ、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵されたことがわかる。なお、蔵書票「和書門」が貼り重ねられたことで判読不能となった蔵書票は、そのデザインから「内務省図書」の蔵書票と推察される（【一】参照）。

・書誌情報
［外題］①②題箋「養生法　上・下」
［内題］①②「養生法」
［著者］①一オ「侍医医学校教頭蘭疇松本良順誌／隠士楽斎山内豊城校閲補註」
［法量］二二・六×一五・一糎
［墨付丁数］①二七、②三〇
［表紙］縹色卍繋ぎ艶出表紙
［刊記］②裏表紙見返し「大学東校／官版御用所／西洋医書／発兌書林　英蘭堂　東京馬喰町二丁目　嶋村屋利助」
［印記］①扉に版元印、一オ「宣教使」「教部省文庫印」「図書局文庫」「日本政府図書」、二十六ウ「図書局文庫」。②跋四ウ「図書局文庫」
［蔵書票等］①表紙蔵書票「共弐本　百廿八」、「和書門（斜線により取消）／　類／四三一二一号／一三六函／九架／二冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）
［刊写］跋刊
［その他］②巻末に広告（書目省略）あり。

【一六】健全学　三巻六冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九六-〇〇一七）

イギリスの医師マン（Robert James Mann, 1817-1886）が著した医学書のオランダ語訳版を、杉田玄端（一八一八―一八八九）が日本語に訳したもの。慶応三年（一八六七）刊。全六冊。邦題は、オランダ語のヘソンド gezond が意味する「無病健全」に因む。
印記および残存した購入書店のラベルから、明治一三年に有隣堂から購入したことがわかる。

・書誌情報
［外題］①～⑥題箋「健全学　一～六」
［内題］①上編一オ「健全学上編巻之上」、②上編廿二オ「健全学上編巻之下」、③第七篇　筋神経脳髄七十六オ「健全学中編巻之上」、④第九篇　健全及び疾病百六オ「健全学中編巻之下」、⑤第十一篇下編飲料百五十オ「健全学下編巻之上」、⑥第十二篇下編大気浴場及運動百八十二オ「健全学下編巻之下」
［著者］①③～⑥一オ「杉田擴玄端　訳」

［法量］一八・二×一二・二糎
［墨付丁数］①三八、②四四、③三一、④四五、⑤三三、⑥五五
［表紙］黄檗色菊花文艶出表紙
［刊記］①扉「慶応丁卯孟冬新鐫／杉田擴玄瑞訳／健全学／致高館蔵版」、④巻末広告オ「明治六年第十一月新鐫（書目省略）」、広告ウ「東京書林　嶋村屋利助／中外堂梅二郎／丸屋善七／山城屋佐兵衛／致高館蔵版成本所　勝倉半兵衛」
［印記］①③⑤扉に魁星印、版元印。①扉「上編」、③扉「中編」、⑤扉「後編」。①～⑥一オ「明治十三年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」。
［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／四三一二六号／一三六函／一〇架／六冊」
［刊写］刊
［その他］版心「致高館藏校」。①扉に貼紙「遐　譲」とあり。②裏表紙見返しに、購入した書店のラベルが残存している。それぞれ②「東京書肆／二一七号／リセ／ミリ／有隣堂章」④「東京書肆／二二〇四／ミリンセ／ミリンセ／有隣堂章」⑥「東京書肆／二二〇五／ミリンセ／ミリンセ／有隣堂章」。

【一七】健全学　三巻六冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九六-〇〇一八）

資料の概要については【一六】を参照のこと。
印記および蔵書票から、明治九年に購入され内務省図書局に収納されたのち、同省衛生局において保管されたものと考えられる。

・書誌情報
［外題］①～⑥題箋「健全学　一～六」
［内題］①上編一オ「健全学上編巻之上」、②上編廿二オ「健全学上編巻之下」、③第七篇　筋神経脳髄七十六オ「健全学中編巻之上」、④第九篇　健全及び疾病百六オ「健全学中編巻之下」、⑤第十一篇下編飲料百五十オ「健全学下編巻之上」、⑥第十二篇下編大気浴場及運動百八十二オ「健全学下編巻之下」
［著者］杉田擴玄端　訳
［法量］一八・一×一二・八糎
［墨付丁数］①三八、②四五、③三一、④四四、⑤三三、⑥五五
［表紙］黄檗色菊花文艶出表紙
［刊記］①扉「慶応丁卯孟冬新鐫」、⑥後付「明治六年第十月新鐫」
［印記］①～⑥一オ「明治九年購求」「内務省図書記」「日本政府図書」、⑤百六十六ウ百八十一ウ・⑥二百八オ・後付「内務省図書記」、①③⑤扉に魁星印および版元印、「初編」「中編」「後編」
［蔵書票等］表紙蔵書票「和［…］／二［…］／　函／　架／　六冊」「衛生局　第拾弐号　和ノ筐」、「［…］冊」、表紙見返し蔵書票「内務省図書／第三十二番／部　號／六冊」
［刊写］刊

【一八】健全学　三巻六冊　外務省旧蔵
（請求番号　二七一-〇五〇九）

資料の概要については【一六】を参照のこと。
印記「在清国日本公使館所蔵記」より、中国（清）の日本公使館の所蔵本であったことがわかる。外交には直接関係がないと思われる本

書が置かれた目的や、清国への派遣時に日本から持って行ったのか同地到着後に日本から取り寄せたのか等、収蔵の経緯は未詳である。

・書誌情報

［外題］①～⑥題箋「健全学　一～六」

［内題］①上編一オ「健全学上編巻之上」、②上編卅二オ「健全学上編巻之下」、③第七篇　筋神経脳髄七十六オ「健全学中編巻之上」、④第九篇　健全及び疾病百六オ「健全学中編巻之下」、⑤第十一篇下編飲料百五十オ「健全学下編巻之上」、⑥第十二篇下編大気浴場及運動百八十二オ「健全学下編巻之下」

［著者］一オ「杉田擴玄端　訳」

［法量］一八・二×一二・二糎

［墨付丁数］①三八、②四五、③三一、④四五、⑤三三、⑥五六

［表紙］黄檗色菊花文艶出表紙

［刊記］①扉「慶応丁卯孟冬新鐫／杉田擴玄端訳／健全学／致高館蔵版」、②④⑥後付「東京書林　嶋村屋利助／中外堂梅二郎／丸屋善七／山城屋佐兵衛／致高館蔵版成本所　勝倉半兵衛」

［印記］①③⑤扉に魁星印・版元印、①「初編」、③「中編」、⑤「下編」、①～⑥「第二七四九号／第一三門／第二類」「在清国日本公使館所蔵記」

［蔵書票等］①～⑥表紙蔵書票「和本第五類第三十一号」

［刊写］刊

【一九】阿蘭陀油方　一冊　医学館旧蔵

（請求番号　一八三-〇六五三）

植物から油を採取し薬用に調合する方法や、その効能について解説を付したもので、「阿蘭陀油薬方」「紅毛油薬方」等の書名でも知られる。植物名は、ラテン語ないしオランダ語をカタカナで表記されている。

本書は、「多紀氏蔵書印」が捺されていることが注目される。多紀氏は代々漢方医学を以て幕府奥医師を務めており、多紀元孝（一六九五―一七六六）が創設した私塾躋寿館がのちに幕府医学館となったことで知られる。なお、多紀氏は、数多の領域にわたる資料を蒐集した蔵書家木村蒹葭堂（一七三六―一八〇二）や本草家小野蘭山（一七二九―一八一〇）、外科学の進展のため幕府の蘭医学書を閲覧することを許されていた奥医師桂川氏と親交があった（森潤三郎『多紀氏の事蹟』）。裏表紙見返しに記された「河合先生」「椎名義頼為道」については未詳。経緯は未詳ながら、蘭方医学に関する書が多紀氏の旧蔵書に存在し、そして、それが内閣文庫に収蔵された事例として興味深い。

・書誌情報

［外題］左肩に墨書打付「阿蘭油取油方　全」

［内題］一オ「阿蘭陀油方油取様付り能之事」

［著者］記載なし

［法量］一四・三×二〇・三糎

［墨付丁数］三三

［表紙］朽葉色無地表紙

［刊記］なし

［印記］一オ「多紀氏蔵書印」（斜線により取消）「日本政府図書」

［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／二七〇二五号／七〇函／

七架／一冊」
［刊写］写
［その他］裏表紙見返し墨書「河合先生験之／椎名義頼為道／宝暦六丙子年二月十六日」

【二〇】阿蘭陀諸草油取様之事　一冊
（請求番号　一八三-〇六〇六）

植物由来の油の性質やその採取方法、症状に合わせて複数の油を調合して用いる方法について記載したもの。原著に関する情報は書かれておらず、未詳。

表紙に大学南校物産局のものと思われる蔵書票「物産」が貼付されていることから、官立の博物館創設のために物産局に移された、あるいは新たに購入された資料のひとつと考えられる。また、印記から、明治七～一四年の間に浅草文庫に収められたことがわかる。

・書誌情報
［外題］題箋に墨書「阿蘭陀諸草油取様　全」
［内題］一オ「阿蘭陀諸草油取様之事」
［著者］記載なし
［法量］一四・四×一九・六糎
［墨付丁数］二九
［表紙］縹色無地表紙
［刊記］なし
［印記］一オ「日本政府図書」（斜線により取消）「浅草文庫」
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／一七五八五号／二二八函／一四架／一冊」「物産　四ノ二」
［刊写］写
［その他］表紙と一丁目の間に遊紙あり。

【二一】阿蘭陀本草和解　二冊　紅葉山文庫旧蔵
（請求番号　一九六-〇一七二）

本書は、八代将軍徳川吉宗（一七一六―一七四五）の命により、医師野呂元丈がベルギーの植物学者ドドネウス（Rembert Dodoens, 1517-1585）によって編纂された絵入り植物百科事典『草木誌』のオランダ語版（*Crvydt-boeck, Remberti Dodonæi : volghens sijne laetste verbeterin,* 1644）を抄訳したもの。なお、本書にはポーランドの医学者・博物学者ヨンストン（Jan Jonston, 1603-1675）が著した動物百科事典『動物図譜』のオランダ語版（*Naeukeurige beschrijving van de natuur,* 1660）の抄訳である「阿蘭陀禽獣蟲魚図和解」も合綴されている。本文には、翻訳にあたって、江戸参府のためオランダ宿に滞在していたオランダ商館長や同商館医に質問し、オランダ通詞らを通じて助言を得たことが記されている。植物名の右肩に記された数字は、原書のページ数を示している。綴じ順は必ずしも編年形式ではないが、寛保元年（一七四一）三月から寛延三年（一七五〇）年三月までの一〇年の年月を費やして訳出し、基本的には一年分を一編として、原則としてそれぞれ表題に干支を冠し、都合一二編を二冊に合綴している。

印記より、紅葉山文庫から浅草文庫に引き継がれたことがわかる。

なお、紅葉山文庫に所蔵されていたドドネウス『草木誌』は、現在、東京国立博物館に所蔵されている（福井保『内閣文庫書誌の研究』）。

東京国立博物館デジタルライブラリーで公開されている資料画像を確認したところ、表紙見開きに紅葉山文庫旧蔵であることを示す墨書と、内務省旧蔵であることを示す蔵書票が確認できた。また、扉には「蕃書調所（消印）」「内務省図書記（消印）」「農商務省図書」「帝国博物館図書」の印記が確認される。当館所蔵の『阿蘭陀本草和解』にも、大学南校物産局のものと思われる蔵書票「物産」が貼付されており、原書と元丈による邦訳が、博覧会事業のために同一部局で保管されていた時期があったものと推察される。その後、原書が博物館に、邦訳が内閣文庫に収められるに至った理由は未詳である。

・書誌情報

［外題］題箋に墨書「阿蘭陀本草和解　共二」

［内題］①一オ「癸亥阿蘭陀本草和解」、②一オ「壬戌阿蘭陀本草和解」

［著者］記載なし

［表紙］白地に藍色洲浜摸様表紙

［刊記］なし

［印記］①一オ「日本政府図書」（斜線により取消）「浅草文庫」

［蔵書票等］①②表紙蔵書票「和書門／　類／一七五八六号／二一二函　／六架／二冊」、②表紙蔵書票「物産　□□」

［刊写］写

［その他］①後遊紙墨書「右者阿蘭陀本草書面之通外科ひゐりつふ・ひいとる・むすくるす申候趣和解仕候、以上／辛酉三月」、②後遊紙墨書「延享二年乙丑三月　野呂元丈和解／阿蘭陀外科　ムスクルス／大通事　末次徳左衛門／小通事　楢林重右衛門」

【二二】和蘭桜木一角説　一冊　紅葉山文庫旧蔵

（請求番号　特一二二-〇〇一〇）

「和蘭桜木一角説」と「和蘭話訳」の二編を収録。双方とも、筆者は実学者青木昆陽（敦、一六九八―一七六九）。各編冒頭に、「和蘭桜木一角説」は延享三年（一七四六）にオランダ人への聞き取り調査で知った桜の木に関する説と一角（ウニコウル）に関する説の二つについて記録したものであること、「和蘭話訳」は寛保三年に語学習得の補助とすべくオランダ語の書簡を翻訳して大意を記したものである旨が記されている。

印記より、紅葉山文庫から浅草文庫に引き継がれたことがわかる。

・書誌情報

［外題］題箋に墨書「和蘭桜木一角説　幷話訳」

［内題］和蘭桜木一角説

［著者］和蘭話訳一オ「青木敦」

［法量］二六・五×一八・一糎

［墨付丁数］一七

［表紙］海松色無地表紙

［刊記］和蘭話訳一オ「寛保三年三月初丑　青木敦書書（印）」

［印記］一オ「日本政府図書」「浅草文庫」「内閣文庫」

［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／四三五四七号／一三九函　／一架／一冊（蔵書票の上に朱印「主務消印」）」

［刊写］写

［その他］帙あり。朱筆傍線あり。

【二三】六物新志　二冊

（請求番号　一九六-〇一四五）

当時の蘭学者たちが高い関心を寄せていた六種類の薬種（一角（ウニコウル）、泊夫藍（サフラン）、肉豆蔻（ニクヅク）、木乃伊（ミイラ）、噎蒲里哥（エブリコ）、人魚（ニンギョ））について、蘭学者大槻玄沢が、複数の蘭書を参照に、その効能等を考証したもの。

・書誌情報

［外題］①②題箋「六物新志　上・下」

［内題］①六物新志巻之上、②六物新志巻之下

［著者］①②一オ「東奥　玄沢　大槻茂質子煥訳考／若狭　紫石　杉田勤士業校訂」

［法量］二六・七×一八・二糎

［墨付丁数］①三六、②三五

［表紙］山吹色菊花文艶出表紙

［刊記］②後跋二ウ「天明六年丙午十一月／西京大愚小石道書於江都之寓居」

［印記］扉に版元印、前遊紙「日本政府図書」（別紙に捺されていたものを切り取り貼布したもの）

［蔵書票等］表紙貼紙に朱書き「際」「第七十四函」、表紙蔵書票「太政官文庫／和書門／　類／三二〇三一号／　函／　架／二冊」（斜線により取消）

［刊写］刊

［その他］表紙墨書「共二」。版心「蒹葭堂」。

【二四】蘭畹摘芳　六巻三冊　木村蒹葭堂旧蔵

（請求番号　一九六-〇一七一）

大槻玄沢が西洋の薬品や産物について訳述したものを、後に門人らが編纂した書。はじめは写本でのみ流通したが、のちに刊本も作成された。玄沢が余暇に訳述したものや門人らの問いに対する答えを基としており、内容は多岐にわたる。

旧蔵者の木村蒹葭堂は、酒造業のかたわら、蘭学をはじめとした多岐にわたる分野で活躍した。特に、書籍および文物収集に力を注ぎ、広範な交友関係を築いたことで知られる。蒹葭堂没後、その蔵書は幕命によって献納させられ、昌平坂学問所に収められた（瀧川義一『木村蒹葭堂の蘭学志向　一　語学と本草学を中心に』）。その後、内閣文庫に引き継がれ、現在に至っている。

・書誌情報

［外題］①②題箋「蘭畹摘芳　上・中」、③墨書打付「蘭畹摘芳　下」

［内題］①五オ「蘭畹摘芳巻之一」、②一オ「蘭畹摘芳巻之三」、③一オ「蘭畹摘芳巻之五」

［著者］①五オ・②③一オ「磐水先生訳考／豊間　蓮沼清輯筆録／土浦　山村昌永校訂」

［法量］二七・五×一八・六糎

［墨付丁数］①六一、②七三、③八五

［表紙］朽葉色無地表紙

［刊記］なし

［印記］表紙「番外書冊」、一オ「浅草文庫」「蒹葭堂蔵書印」「日本

政府図書」「内閣文庫」
［蔵書票等］①～③表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／一七四九三号／二一七函／九架／三冊（蔵書票の上に朱印「主務消印」）」、①表紙貼紙「物産　三ノ一」「わ二ノ五」、②③表紙貼紙「動植品物」
［刊写］写
［その他］③のみ表紙に題箋が無く墨書で直接外題が記されているが、表紙に題箋が貼付されていた痕が確認できる。このことから、元は①②と同様の題箋があったものと考えられる。

【二五】蘭畹摘芳附録　二冊　農商務省旧蔵
（請求番号　一九六-〇一七〇）

「蘭畹摘芳」については【二四】を参照のこと。本書が「附録」のみである理由は未詳。

印記「農商務省図書」から、農商務省が発足した明治一四年四月以降に収集されたものと考えられる。「農商務省図書」に捺された消印および印記「太政官文庫」から、本書は、同一七年一月に官庁中央図書館として太政官文庫を設立して諸官庁の蔵書を移管した際、同文庫に引き継がれたものと考えられる。

・書誌情報
［外題］①②題箋に墨書「蘭畹摘芳附録　乾・坤」
［内題］①二オ「蘭畹摘芳五編巻之一」、②二オ「蘭畹摘芳附録巻之二」
［著者］①②二オ「磐水先生訳考　笠間　長谷川興宗僊筆録」
［法量］二七・九×一八・七糎
［墨付丁数］①四〇、②五一
［表紙］茶色格子刷毛目表紙
［刊記］なし
［印記］①一オ「農商務省図書（消印）」「太政官文庫」「内閣文庫」「■書庫」
［蔵書票等］表紙蔵書票「太政官文庫（斜線により取消）／和書門／一一二七〇号／　函／　架／二冊（蔵書票の上に朱印「主務消印」）」、表紙貼紙「博物」
［刊写］写
［その他］①内題が「附録」ではなく「五編」となっているが、誤記と思われる。

【二六】遠西医方名物考　四五巻一五冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八四）

蘭学者宇田川玄真が、西洋の薬物をイロハ順に記載し、産地や効能を訳述したもの。校補は、榛斎の養子榕菴（一七九八―一八四八）による。文政五年（一八二二）から同八年にかけて本編全三六巻が刊行され、天保五年に補遺全九巻が刊行された。

表紙に貼付された蔵書票より、内務省においては、本編と補遺とで異なる番号を付して管理していたことがわかる。内務省において付された番号が本編・補遺で連続していないことから、本編と補遺とで別々に収集した可能性がある。内閣文庫に収蔵された時期は未詳だが、内閣文庫に収められて以降、現在のように本編・補遺を含めた蔵書管理がなされるようになったものと推察される。

印記および蔵書票から、明治一二年に購入され内務省衛生局におい

て保管されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①題箋「遠西医方名物考　以　巻一」、②題箋「遠西医方名物考　仁下・保・閉　巻四」、③題箋「遠西医方名物考　加中　巻七」、④題箋「遠西医方名物考　良下・武・宇・久・也・末上　巻十」、⑤題箋「遠西医方名物考　己・天上　巻十三」、⑥題箋「遠西医方名物考　安二　巻十六」、⑦題箋「遠西医方名物考　左・幾一　巻十九」、⑧題箋「遠西医方名物考　幾四　巻二十二」、⑨題箋「遠西医方名物考　之二　巻二十五」、⑩題箋「遠西医方名物考　比・毛・世一　巻二十八」、⑪題箋「遠西医方名物考　世四　巻三十一」、⑫題箋「遠西医方名物考　寸三　巻三十四」、⑬題箋「遠西医方名物考補遺　巻一」、⑭題箋「遠西医方名物考補遺　巻四」、⑮題箋「遠西医方名物考補遺　巻［…］」

［内題］①～⑫一オ「遠西医方名物考」、⑬～⑮一オ「遠西医方名物考補遺」

［著者］一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」

［法量］二五・七×一七・七糎

［墨付丁数］①八九、②八二、③八三、④八〇、⑤八一、⑥八四、⑦八五、⑧八六、⑨八五、⑩八四、⑪八五、⑫九五、⑬九九、⑭八三、⑮九五

［表紙］焦茶色小葵艶出表紙

［刊記］①～⑮後付「書売　青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」、⑬⑭扉「天保五年仲夏新鐫」

［印記］①扉に魁星印・版元印。①～⑫扉「初篇」～「十二篇」、⑬～⑮扉「初篇」～「三篇」。①凡例一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」（斜線により取消）

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門／　類／二二七三三号／　函／架／一五冊」「内務省図書／第三三八二番／　部　号／十二冊」「衛生局／第一号／保ノ筐」、⑬表紙蔵書票「内務省図書／第三三三九番／　部　号／三冊」「衛生局／第二号／保ノ筐」「［…］冊」

［刊写］刊

［その他］版心「風雲堂藏」。①⑫⑬⑮後付「青藜閣藏版書目録（書目省略）」、①～⑮後付末尾「東都書林青藜閣発行医書予顕目録（書目省略）」。各冊に三巻ずつ収録されており、題箋に刷られた「以呂波」および巻数は、各冊冒頭の巻のみ。扉に捺された「○篇」の数字は冊次と同じ。

【二七】遠西医方名物考　四五冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二八二）

資料の概要については【二六】を参照のこと。

印記から、明治一三年に購入され内務省図書局に収められたことがわかる。

蔵書票の附番より、【二六】【二八】と異なり、はじめから本編・補遺ともに一括で管理していたことがわかる。蔵書票「和書門」の枠に施されている装飾を比較すると、【二六】【二八】は同一で、本書のみ異なる。このことから、二件と本書では収蔵時期が異なり、そのため、附番の方法に差異が生じたものと推察される。

・書誌情報

［外題］①題箋「遠西医方名物考　以　巻一」、②題箋「遠西医方名物考　呂・波上　巻二」、③題箋「遠西医方名物考　波下・仁上　巻三」、④題箋「遠西医方名物考　仁下・保・閉　巻四」、⑤題箋「遠西医方名物考　土　巻五」、⑥題箋「遠西医方名物考　知・利・遠・加上　巻六」、⑦題箋「遠西医方名物考　加上　巻七」、⑧題箋「遠西医方名物考　加下・与　巻八」、⑨題箋「遠西医方名物考　太・礼・曽・奈・良上　巻九」、⑩題箋「遠西医方名物考　良下・武・宇・久・也・未上　巻十」、⑪題箋「遠西医方名物考　未下・計上　巻十一」、⑫題箋「遠西医方名物考　計下・不　巻十二」、⑬題箋「遠西医方名物考　己・天上　巻十三」、⑭題箋「遠西医方名物考　天下　巻十四」、⑮題箋「遠西医方名物考　安一　巻十五」、⑯題箋「遠西医方名物考　安二　巻十六」、⑰題箋「遠西医方名物考　安三　巻十七」、⑱題箋「遠西医方名物考　安四　巻十八」、⑲題箋「遠西医方名物考　左・幾一　巻十九」、⑳題箋「遠西医方名物考　幾二　巻二十」、㉑題箋「遠西医方名物考　幾三　巻二十一」、㉒題箋「遠西医方名物考　幾四　巻二十二」、㉓題箋「遠西医方名物考　幾五・女・美　巻二十三」、㉔題箋「遠西医方名物考　之一　巻二十四」、㉕題箋「遠西医方名物考　之二　巻二十五」、㉖題箋「遠西医方名物考　之三　巻二十六」、㉗題箋「遠西医方名物考　之四・恵　巻二十七」、㉘題箋「遠西医方名物考　比・毛・世一　巻二十八」、㉙題箋「遠西医方名物考　世二　巻二十九」、㉚題箋「遠西医方名物考　世三　巻三十」、㉛題箋「遠西医方名物考　世四　巻三十一」、㉜題箋「遠西医方名物考　寸一　巻三十二」、㉝題箋「遠西医方名物考　寸二　巻三十三」、㉞題箋「遠西医方名物考　寸三　巻三十四」、㉟題箋「遠西医方名物考　寸四　巻三十五」、㊱題箋「遠西医方名物考　名物図攷　巻三十六」、㊲～㊺題箋「遠西医方名物考補遺　巻一～九」

［内題］①～㊱「遠西医方名物考巻一～三十六」、㊲～㊺「遠西医方名物考補遺巻一～九」

［著者］①～㉟㊲～㊺一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」

［法量］二五・八×一七・五糎

［墨付丁数］①二九、②二七、③二九、④二九、⑤二九、⑥二七、⑦　二八、⑧三〇、⑨二八、⑩二九、⑪二五、⑫二九、⑬二七、⑭二九、⑮二八、⑯三〇、⑰二七、⑱三〇、⑲三〇、⑳二九、㉑二九、㉒三一、㉓二九、㉔二九、㉕三〇、㉖二八、㉗三〇、㉘三一、㉙二八、㉚二八、㉛三〇、㉜三〇、㉝二八、㉞三一、㉟二九、㊱三〇、㊲三三、㊳二九、㊴三二、㊵二八、㊶二九、㊷二九、㊸三一、㊹三三、㊺三四

［表紙］焦茶色小葵艶出表紙

［刊記］①④⑦⑩⑭⑯⑲㉒㉕㉘㉛㉞表紙見返し「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」、㊲㊵㊸「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考補遺／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」

［印記］表紙見返しに魁星印、版元印。①④⑦⑩⑭⑯⑲㉒㉕㉘㉛㉞「初篇」～「十二篇」、㊲㊶㊸「初篇」～「三篇」。①～⑮凡例一オ「明治十三年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」

［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／二八六一四号／八八函／五架／四五冊」（斜線により取消）

［刊写］刊

［その他］版心「風雲堂藏」。③⑥⑨⑫⑮⑱㉑㉔㉗㉚㉝㊱㊴㊷㊺後付「和蘭翻訳医書窮理書発行目録（書目省略）江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」

【二八】遠西医方名物考　四五巻一五冊　横浜司薬場旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八三）

資料の概要については【二六】を参照のこと。

本書は、蔵書票から【二六】と同様、当初は本編と補遺とで異なる整理番号を付して管理していたことがわかる。本編・補遺を同一の附番で管理しだしたのは、内閣文庫に収蔵されて以降のことと推察される。

また、印記「横浜司薬場印」から横浜司薬場の旧蔵であったことがわかる。司薬場は明治七年三月、文部省が東京・京都・大阪に設けたもので、薬品の品質検査を行いその取り締まりを担った。翌八年六月に衛生行政が内務省に移管されて以降、内務省の管轄となった。同九年八月に京都司薬場が廃止され、それに代わる形で横浜・長崎に司薬場が設けられた。よって、横浜および長崎の司薬場は、東京・大阪と異なり、設置当初から内務省の管轄下にあった組織である。『改訂増補内閣文庫蔵書印譜』においても「内務省から当文庫（筆者注、内閣文庫）に移管された本の中に、これらの司薬場の旧蔵書が含まれて」いたと記載されている（『改訂増補内閣文庫蔵書印譜』一五九頁。）。広い範囲でみるならば、本資料も内務省旧蔵書の一部、と捉えることができる。

なお、明治一四年には長崎司薬場が廃止、残る三か所（東京・大阪・横浜）の司薬場は同一六年に試験場と改称された。以上から、本書は「横浜司薬場」の印が使用された明治八年から同一六年の間に収集された可能性が高い。

・書誌情報

［外題］①～⑫題箋「遠西医方名物考」、題箋下部に墨書で巻数書き込みあり（①「自第一巻至第三巻」、②「自第四巻至第六巻」、③「自第七巻至第九巻」、④「自第十巻至第十弐巻」、⑤「自第十三巻至第十五巻」、⑥「自第十六巻至第十八巻」、⑦「自第十九巻至第廿一巻」、⑧「自第廿二巻至第廿四巻」、⑨破損により題箋の上部三分の二が失われている「［…］廿五巻［…］巻」、⑩「自第廿八巻至第卅巻」、⑪「自第三十一巻至第三十三巻」、⑫「自第卅四巻至第三十六巻　止」）、⑬～⑮題箋「遠西医方名物考補遺」題箋下部に墨書で巻数書き込みあり（⑬「自第一巻至第三巻」、⑭「自第四巻至第六巻」、⑮「自第七巻至第九巻　止」）

［内題］①～⑫一オ「遠西医方名物考巻一～三十五」（巻三十六のみ内題を欠く）、⑬～⑮一オ「遠西医方名物考補遺巻一～九」

［著者］①～⑮一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」

［法量］二五・六×一七・九糎

［墨付丁数］①八四、②八四、③八五、④八二、⑤八三、⑥八六、⑦八七、⑧八八、⑨八七、⑩八六、⑪八七、⑫九〇、⑬九三、⑭八五、⑮八八

［表紙］縹色唐花艶出表紙

［刊記］①扉「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」、巻一凡例十ウ「文政五年壬午仲秋／男榕謹記」、⑬扉「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考補遺／風雲堂蔵版　青藜

閣発兌」

［印記］①扉版元印、①～⑫「初篇」～「十二篇」、⑬～⑮「初篇」～「三篇」。①～⑮標目一オ「横浜司薬場印」「日本政府図書」

［蔵書票等］①～⑮表紙「和／医学／一～一五」、①扉「和書門／　類／三〇二八七号／　函／　架／一二冊」、①～⑫表紙「癸／　／三」、②～⑫扉「甲十四号」（①太政官文庫の蔵書票と思われる「和書門」に楕円形のシミが浮いている。シミの形状、②以降の「甲十四号」の貼付位置から、「和書門」は「甲十四号」の上から貼付されたものと思われる）、⑬扉「和書門／　類／三〇二八八号／　函／　架／三冊」、⑬～⑮表紙「癸／　／四」、扉「甲十五号」

［刊写］刊

［その他］版心「風雲堂蔵」。印「日本政府図書」は、他の料紙に捺したものを印の大きさに切り取り、貼り付けられている。⑭裏表紙見返し部分に、墨書書付二枚および書袋「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」（印「三篇」、版元印）の挟み込みあり。各冊冒頭に、収載された三巻分の標目あり。⑪裏表紙見返し、裏表紙と見返しの間に出版当時の書袋が挟まれている。裏表紙と見返しの料紙はのど以外の三方が糊付けされているため、挟み込まれた書袋を取り出して実見することはできない状態となっている。このことから、現在の装丁は出版当時のものではなく、付け替えられた可能性が高い。⑫⑮裏表紙見返し「和蘭翻訳医書窮理書発行目録（書目省略）播州姫路元塩町　灰屋庄八／大坂心斎橋筋縛労町　河内屋茂兵衛／青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」。

【二九】遠西医方名物考　一五冊　大坂司薬場旧蔵

（請求番号　一九六-〇一〇三）

資料の概要については【二六】を参照のこと。

印記「大坂司薬場印」より、本書は明治八年から同一六年の間に収集された可能性が高い。

・書誌情報

［外題］①②⑥～⑮題箋「遠西医方名物考」、③～⑤「遠西医方名物考補遺」

［内題］①巻一の一オ「遠西医方名物考巻一」、②巻三十四の一オ「遠西医方名物考巻三十四」、③～⑤巻一の一オ「遠西医方名物考補遺巻一」、⑥巻四の一オ「遠西医方名物考巻四」

［著者］①～⑮一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」

［法量］二五・五×一八・〇糎

［墨付丁数］①八四、②九〇、③九三、④八五、⑤八八、⑥八四、⑦八五、⑧八二、⑨八三、⑩八六、⑪八七、⑫八八、⑬八七、⑭八六、⑮八七

［表紙］焦茶色小葵艶出表紙

［刊記］①②⑥～⑮扉「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」、巻一凡例十ウ「文政五年壬午仲秋／男榕謹記」、③～⑤扉「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考補遺／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」

［印記］①表紙「日本政府図書」、題箋「正」「第一七号」、扉魁星印・版元印、巻一標目一オ「第一七号」「大坂司薬場印」「大坂府医

学校」。扉①「初篇」、②「十二篇」、③～⑤「初篇」～「三篇」、⑥～⑮「二篇」～「十一篇」。

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門／　類／三〇三〇九号／　函／　架／一五冊」「和五共□」

［刊写］刊

［その他］版心「風雲堂蔵」。①巻一～三、②巻三十四～三十六、③補遺巻一～三、④補遺巻四～六、⑤補遺巻七～九、⑥巻四～六、⑦巻七～九、⑧巻十～十二、⑨巻十三～十五、⑩巻十六～十八、⑪巻十九～二十一、⑫巻二十二～二十四、⑬巻二十五～二十七、⑭巻二十八～三十、⑮巻三十一～三十三。この巻の並びで整理番号が附番された理由は未詳。②⑤裏表紙見返し「和蘭翻訳医書窮理書発行目録（書目省略）播州姫路元塩町　灰屋庄八／大坂心斎橋筋縛労町　河内屋茂兵衛／青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」。⑨ノドに綴じ直した形跡あり。⑨⑩⑪⑬墨書書き込み（傍線・丸囲み）あり。③全体的に水損によるものと思われるシミが広がっており、ノドほど濃い。

【三〇】遠西医方名物考　一一冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九六-〇一〇六）

資料の概要については【二六】を参照のこと。

印記から、明治一六年に購入され内務省図書局に収められたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①～⑪題箋に墨書「遠西医方名物考　Ⅱ～ⅠⅡ」

［内題］①～⑪一オ「遠西医方名物考巻四・七・十・十三・十六・十九・二十二・二十五・二十八・三十一・三十四」

［著者］①～⑪一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」

［法量］二五・〇×一七・〇糎

［墨付丁数］①八五、②八六、③八三、④八四、⑤八七、⑥八八、⑦八九、⑧八八、⑨八七、⑩八八、⑪九七

［表紙］焦茶色無地表紙

［刊記］①～⑪扉「榛斎宇田川先生著／遠西医方名物考／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」

［印記］①扉魁星印・版元印、①～⑪「二篇」～「十二篇」。①一オ「七二二番」「明治十六年購求」「図書局文庫」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門／　類／　号／一九六函／二〇　架／一一冊」

［刊写］刊

［その他］版心「風雲堂蔵」。巻一～三を欠く。題箋には、書名の直下にローマ数字で冊次が記されている。なお、「十」は「X」ではなく太字の「I」で表現されている。筆記者の誤記か、何らかの規則に基づきそのように記載したのかは不明。①～⑪裏表紙見返し「〇榛斎宇田川先生著述発行書目／（書目省略）／書売　大阪心斎橋通唐物町　河内屋太助／大阪心斎橋通南本町　河内屋儀助／江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊三郎」、⑪後付「青藜閣蔵版書目録　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊三郎（書目省略）」七丁あり。表紙朱書き①「四・五・六」、②「七・八・九」、③「十・十一・十二」、④「十三・十四・十五」、⑤「十六・十七・十八」、⑥「十九・廿・廿一」、⑦「廿二・廿三・廿四」、⑧

「廿五・廿六・廿七」、⑨「廿八・廿九・三十」、⑩「三十一・三十二・三十三」、⑪「三十四・三十五・三十六」。

【三一】新訂増補和蘭薬鏡　一八巻六冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八五）

文政三年、宇田川玄真（榛斎）が複数のオランダの本草書・薬説から抄訳し、効能や製材方法などをまとめていた稿本を、養子である榕菴が『和蘭薬鏡』として刊行したが、初編三巻のみで途絶していた。その後、榕菴が、玄真の稿本を編集し直し、新たな西洋の知見・学説等を適宜補い、『新訂増補和蘭薬鏡』全一八巻として文政一一年から天保六年にかけて刊行した。

本書は、印記「明治十二年購求」および蔵書票「衛生局」から、明治一二年に購入され、内務省衛生局において保管されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①～⑥題箋「新訂増補　和蘭薬鏡　巻一～六」
［内題］①～⑥一オ「新訂増補和蘭薬鏡巻一～十六」
［著者］①～⑥一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」
［法量］二五・七×一七・七糎
［墨付丁数］①八八、②八三、③八〇、④八七、⑤八二、⑥九一
［表紙］焦茶色小葵艶出表紙
［刊記］①扉「文政十三年仲夏新鐫／榛斎宇田川先生著／新訂増補和蘭薬鏡／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」、①巻一凡例十四オ「文政十一年戊子季春　男榕謹記」
［印記］①題箋「東岡」、扉魁星印・版元印、①「初篇」④「二篇」、①巻一凡例一オ「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」
［蔵書票等］①表紙蔵書票「内務省図書／第三三三八番／　部　号／六冊」「衛生局／第三号／保ノ筐」「[…]六冊」「和書門（斜線により取消）／　類／二九五二二号／　函／　架／六冊」
［刊写］刊
［その他］版心「風雲堂蔵」。①後付「青藜閣蔵版書目録／（書目省略）／江戸浅草　茅町二丁目　須原屋伊八」七丁あり、①②③⑤裏表紙見返し「東都書林青藜閣発行医書豫顕目録／（書目省略）／書売　青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」、④裏表紙見返し「〇榛斎宇田川先生著述発行書目／（書目省略）／書売　青藜閣　江戸浅草茅町二丁目　須原屋伊八」、⑥後付「青藜閣蔵版書目録（書目省略）」七丁あり。

【三二】新訂増補和蘭薬鏡　一八冊　横浜司薬場旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八六）

資料の概要は【三一】を参照のこと。

印記「横浜司薬場印」より、横浜司薬場が設けられた明治九年から、横浜試験場に改称された同一六年までの間に収集された可能性が高い。なお、各司薬場は、明治八年、内務省中に衛生局が置かれて以降は同局の管轄下とされた。

・書誌情報

［外題］①～⑱題箋「新訂増補　和蘭薬鏡　巻一～十八」

［内題］①～⑱一オ「新訂増補和蘭薬鏡巻一～十八」
［著者］①～⑱一オ「榛斎先生訳述　男　宇田川榕榕庵校補」
［法量］二五・八×一七・七糎
［墨付丁数］①二七、②二八、③二九、④三〇、⑤三一、⑥二六、⑦三六、⑧二〇、⑨二八、⑩三六、⑪二一、⑫三三、⑬三二、⑭二九、⑮二七、⑯三二、⑰二七、⑱二八
［表紙］焦茶色小葵艶出表紙
［刊記］①④⑦⑬扉「榛斎宇田川先生著／新訂増補和蘭薬鏡／風雲堂蔵版　青藜閣発兌」、①巻一凡例十四オ「文政十一年戊子季春　男榕謹記」
［印記］①扉魁星印・版元印。①④⑦⑩⑬⑯「初篇」～「六篇」、表紙見返し「日本政府図書」、一オ「横浜司薬場印」
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／三〇二九六号／　函／　架／一八冊」「癸／　／八」「和／薬学／一～一八」、表紙見返し蔵書票「甲十六号」
［刊写］刊
［その他］版心「風雲堂蔵」。「日本政府図書」の印記は、別紙に捺したものを切り取って貼付してある。③⑥⑨⑫⑮⑱裏表紙見返し「和蘭翻訳医書窮理書発行目録」。⑨⑮表紙見返し・④⑯⑱裏表紙見返し欠損。⑭表紙見返し・裏表紙に墨書落書きあり。

【三三】泰西本草名疏　三冊　内務省旧蔵
（請求番号　一九六-〇一七三）

本草学者伊藤圭介（一八〇三―一九〇一）が、長崎滞在中のシーボルト（Philipp Franz von Siebold, 1796-1866）に西洋植物学を学んだ際に譲り受けたツュンベリー著『日本植物誌』所収の植物の学名をアルファベット順に配列し、和名を付したもの。文政一二年刊。近代植物学の父と言われるリンネ（Carl von Linne, 1707-1778）の植物分類法を日本で最初に紹介した書としても知られる。

印記から、明治一一年に購入され内務省図書局に収められ、同一四年以降に農商務省に引き継がれ、同一七年に諸官庁の蔵書を一元管理する官庁中央図書館である太政官文庫が発足した際、同文庫に移管されたことがわかる。

・書誌情報
［外題］①②題箋墨書「泰西本草名疏　上・下」、③「泰西本草名疏　附録　全」
［内題］①②一オ「泰西本草名疏巻上・下」、③一オ「泰西本草名疏　附録上」
［著者］①～③一オ「尾張　伊藤舜民戴尭編次」
［法量］二五・七×一八・〇糎
［墨付丁数］①四二、②二九、③四〇
［表紙］焦茶色唐花艶出表紙
［刊記］①扉「文政十二年己丑十月刻成／尾張　錦窠伊藤先生撰／泰西本草名疏／花繞書屋蔵板」、題言三ウ「文政十一年戊子之冬南至後十日／尾張　伊藤舜民戴尭識」、②後跋二ウ「文政戊子抄冬／水谷豊文／丹羽宣成書」、③附録下後跋二ウ「文政己丑榴夏南皐吉雄尚貞撰／柳澤維賢書」
［印記］①扉魁星印・版元印、序一オ「明治十一年購求」「大日本帝国図書印(消印)」「農商務省図書(消印)」「太政官文庫」

［蔵書票等］①～③表紙貼紙「本草」、①表紙蔵書票「農商務省／図書／第四ノ七十五号／共　冊」（他の蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）「太政官文庫／和書門／　類／八二三二号／二二一函／九架／三冊」、②表紙蔵書票「農商務省／和図書／第九〇六号／共三冊」、③表紙蔵書票「医書／農商務省／和図書／第九〇六号／共三冊」

［刊写］刊

［その他］版心「品字社叢書」。不審紙あり。表紙朱書「一四四六」。③附録上・下。

【三四】薬名早引　三冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二八九）

西洋医学で用いる薬物について、ラテン語およびオランダ語での薬名と、日本語での薬名の対訳をイロハ順に収録した書。名称の対訳に特化しており、薬効等は省略されている。

印記および蔵書票より、まずは内務省図書局に収納され、のちに同省衛生局で保管されたものと推察される。

・書誌情報

［外題］①～③題箋「泰西薬名早引　上・下・附録　全」

［内題］①②一オ「薬名早引巻之一・二　羅甸名和蘭名之部」、③「薬名早引附録巻之上　漢名之部」

［著者］①一オ「加賀　横井璨全柳　纂輯／愚堂小森先生閲」

［法量］一七・〇×一一・六糎

［墨付丁数］①七七、②八七、③七二

［表紙］黒色網目艶出表紙

［刊記］①扉「天保丁酉年鐫／愚堂小森先生閲／泰西薬名早引／素道館蔵」、③附言七ウ「天保七年丙申十二月／長家侍医　横井璨識」

［印記］①序一オ「日本政府図書」「内務省図書記」「図書局文庫」、②③表紙・一オ「内一〇四三六号」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「衛生局　第［…］六［…］」「衛生□（局カ）／第拾□（号カ）／保ノ筐」「和書門／　類／［…］」

［刊写］刊

［その他］版心「素道屋館蔵」。③附録巻之上・下。

【三五】窓篤兒薬性論　二一巻九冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二九二）

原著は、ワートル（J. A. van de Water）が著した薬物学書（*Beknopt doch zoo veel mogelijk volledig handboek voor de leer der geneesmiddelen.*）を、プラック（M. W. Plagge, 1794-1845）が校補した版。邦訳は、蘭方医林洞海（一八一三―一八九五）による。天保一一年に翻訳され、嘉永二年に補綴し出版を目指したが、当時、医書の出版許可を統括していた幕府医学館から許可が下りず、出版が実現したのは安政三年のこととなった。

印記及び蔵書票から、まずは内務省図書局に収納され、その後、同省衛生局に保管されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①題箋「窓篤兒薬性論　緩和剤・収斂酸性止血防腐剤　一」、

②題箋「窓篤兒薬性論　強壮解熱剤　二」、③題箋「窓篤兒薬性論　揮発衝動薬・鎮痙剤　三」、④題箋「窓篤兒薬性論　痲酔剤　四」、⑤題箋「窓篤兒薬性論　解凝剤　五」、⑥題箋「窓篤兒薬性論　吐剤・下剤　六」、⑦題箋「窓篤兒薬性論　発汗剤・利尿剤　七」、⑧題箋「窓篤兒薬性論　通経剤・祛痰剤・殺虫清涼（朱書き）　八」、⑨題箋「窓篤兒薬性論　発泡腐蝕剤・鉱泉浴湯　九」

［内題］①～⑨一オ「窓篤兒薬性論巻一～二十一」

［著者］①巻一一オ「和蘭　漠侄　窓篤兒　著／母沙　普勒歇　校補／小倉　洞海林彊健卿　訳補」

［法量］二二・四×一五・〇糎

［墨付丁数］①八七、②九二、③六七、④六六、⑤九二、⑥七〇、⑦五九、⑧五九、⑨四九

［表紙］縹色卍繋ぎ艶出し表紙

［刊記］①扉「安政三丙辰孟春新雕／洞海林健卿訳補／窓篤兒薬性論／英蘭堂蔵版」

［印記］①序一オ「内務省図書記」「図書局文庫」「日本政府図書」、②～⑨表紙・一オ「内一一七八二号」

［蔵書票等］①表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類（斜線により取消）／二二七三一号／　函／架／九冊」「内務省図書／第一一七八二号／和書部医書類／函／共［…］冊」「衛生局　第六号　保ノ筐」「［…］冊」

［刊写］刊

［その他］題箋の刷りは、題と冊次のみ。薬剤名の部分は、墨書による書入れ。⑨後付「英蘭堂発兌書目録（書目省略）」、裏表紙見返し「陸軍医部・海軍病院・医学校　官版御用所／拙鋪累世書籍ヲ鬻キ近年医書及ヒ翻訳書ヲ専ラニス、都鄙一般医学大家著述シ玉フ所アレバ多クハ拙鋪ニ発兌ヲ命セラル故ニ海内新刻ノ医書ハ必ス備エテ以テ漏スコトナカラントス、仰願クハ書ヲ求メ玉フノ諸君子高顧アランコヲ／書肆　東京馬喰町二丁目　英蘭堂　島村利助」。

【三六】窓篤兒薬性論　二一巻一八冊　大坂司薬場旧蔵

（請求番号　一九五-〇二九三）

資料の概要は【三五】を参照のこと。

本書は、印記「大坂司薬場印」より、明治七年から同一六年の間に収納された可能性が高い。

・書誌情報

［外題］①～⑱題箋「窓篤兒薬性論　一～十八」

［内題］①～⑱一オ「窓篤兒薬性論巻一～二十一」

［著者］①一オ「和蘭　漠侄　窓篤兒　著／母沙　普勒歇　校補／小倉　洞海林彊健卿　訳補」

［法量］二二・四×一五・一糎

［墨付丁数］①五六、②三一、③四四、④四八、⑤二八、⑥三九、⑦三三、⑧三三、⑨五一、⑩四一、⑪二六、⑫四四、⑬二三、⑭三四、⑮二九、⑯三〇、⑰二〇、⑱二五

［表紙］縹色卍繋ぎ艶出し表紙

［刊記］①扉「安政三丙辰孟春新雕／洞海林健卿訳補／窓篤兒薬性論／旭窓蔵版」。⑱後付「林洞海訳述／発行書賈　東京横山町三丁目　和泉屋金右衛門／同日本橋通り二丁目　山城屋佐兵衛／同浅草茅町二丁目　須原屋伊八／同大門通難波町　嶋村屋利助」

［印記］①扉版元印あり。題箋「正　第二一号」、表紙「日本政府図書」、序一オ「大坂司薬場印」「大坂」「第二一号」。
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／三〇三一〇号／二三七函／八架／一八冊」。
［刊写］刊
［その他］⑮巻十五・十六合冊、⑯巻十七～十九合冊、⑰巻二十・二十附録合冊。①～⑭は各冊に一巻ずつ収録。

【三七】窓篤兒薬性論　二一巻一八冊　外務省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二九一）

資料の概要は【三五】を参照のこと。
印記「外務省図書記」より、明治二年七月以降に対外交渉を担った外務省の旧蔵書であったことがわかるが、薬学書である本書が外務省の用務に必要とされた理由は未詳。印記「太政官文庫」から、同一七年一月の太政官文庫設立に伴い同文庫に移管されたことがわかる。

・書誌情報
［外題］①～⑱題箋「窓篤兒薬性論　一～十八」
［内題］①～⑱一オ「窓篤兒薬性論巻一～二十一」
［著者］①一オ「和蘭　漠侄　窓篤兒　著／母沕　普勒歇　校補／小倉　洞海林彊健卿　訳補」
［法量］二二・四×一五・〇糎
［墨付丁数］①五六、②三一、③四四、④四八、⑤二八、⑥三九、⑦三三、⑧三三、⑨五一、⑩四一、⑪二六、⑫四四、⑬二五、⑭三四、⑮二九、⑯三〇、⑰二〇、⑱二五
［表紙］縹色卍繋ぎ艶出し表紙
［刊記］①扉「安政三丙辰孟春新雕／洞海林健卿訳補／窓篤兒薬性論／旭窓蔵版」。⑱後付「林洞海訳述／発行書売　東京横山町三丁目　和泉屋金右衛門／同日本橋通り二丁目　山城屋佐兵衛／同浅草茅場町二丁目　須原屋伊八／同大門通難波町　嶋村屋利助」
［印記］①表紙「外務省図書記」、扉版元印、表紙見返し「外務省印信（消印）」、序一オ「太政官文庫」「日本政府図書」
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門（斜線により取消）／　類／一〇四五二号／一一五函／一　四架／一八冊」「和書／一〇四五二号」「三ノ三」、表紙朱書き「外」
［刊写］刊
［その他］⑤二十六丁乱丁。⑮巻十五・十六、⑯巻十七～十九、⑰巻二十・二十附録。①～⑭は各冊に一巻ずつ収録。

【三八】窓篤兒薬性論　二一巻一八冊　教部省旧蔵
（請求番号　一九五-〇二八七）

資料の概要は【三五】を参照のこと。
「蘭方」に分類された『窓篤兒薬性論』四件のうち、【三五】のみ英蘭堂版、【三六】【三七】【三八】は旭窓蔵版。版の異同に収集者の意図があるか否かは、未詳である。
蔵書票「和書門」が貼り重ねられたことで判読不能となった蔵書票は、そのデザインから「内務省図書」の蔵書票と推察される（【一】参照）。
印記から、明治二～五年の間に神祇官宣教師に収められ、同一〇年

の教部省廃止に伴い内務省に収蔵されたことがわかる。

・書誌情報

［外題］①～⑱題箋「窓篤兒薬性論　一～十八」
［内題］①～⑱一オ「窓篤兒薬性論巻一～二十一」
［著者］①一オ「和蘭　漠侄　窓篤兒　著／母沕　普勒歇　校補／小倉　洞海林彊健卿　訳補」
［法量］二二・四×一五・二糎
［墨付丁数］①五六、②三一、③四四、④四八、⑤二八、⑥三九、⑦　三三、⑧三三、⑨五一、⑩四一、⑪二六、⑫四四、⑬二五、⑭三四、⑮二九、⑯三〇、⑰二〇、⑱二五
［表紙］縹色卍繋ぎ艶出し表紙
［刊記］①扉「安政三丙辰孟春新雕／洞海林健卿訳補／窓篤兒薬性論／旭窓蔵版」。⑱後付「林洞海訳述／発行書売　東京横山町三丁目　和泉屋金右衛門／同日本橋通り二丁目　山城屋佐兵衛／同浅草茅場町二丁目　須原屋伊八／同大門通難波町　嶋村屋利助」。
［印記］①扉版元印あり。序一オ「宣教師」「教部省文庫印」「図書局文庫」「日本政府図書」（斜線により取消）
［蔵書票等］表紙蔵書票「和書門／　類／　四三一二八号／一三六函／一〇架／一八冊」（赤い花唐草の飾り枠が印刷された蔵書票の上から貼付されている。下の蔵書票は判読不能）「共拾八本／百廿八」
［刊写］刊
［その他］⑮巻十五・十六、⑯巻十七～十九、⑰巻二十・二十附録。

①～⑭は各冊に一巻ずつ収録。

【三九】新薬百品考　四冊　内務省旧蔵

（請求番号　一九五-〇二九〇）

ドイツの医師アセンブレンナーの新薬集をオランダの薬剤師トリットがオランダ語に訳した書（M. Aschenbrenner; *De nieuwere geneesmiddelen*, 1857）から、蘭学者坪井信良（一八二三―一九〇四）が抄訳したもの。全四冊（初編二冊、二編二冊）、慶応二年刊。

本書後付より、版元は「陸軍医部／海軍病院／医学校　官版御用所」。また、購入年次を示す印記「明治九年購求」が確認される。これらのことから、出版年は明記されていないが、幕府の医学所が「医学校」と改称された明治二年から同九年の間に印刷・刊行されたものであることがわかる。

・書誌情報

［外題］①②題箋「新薬百品考　前篇　上・下」、③④題箋「新薬百品考　後篇　上・下」
［内題］①～④一オ「新薬百品考初編巻之上・下・第二編巻之上・下」
［著者］①一オ「侍医法眼　坪井良信良訳述」
［法量］二二・三×一五・〇糎
［墨付丁数］①四〇、②四七、③四二、④三五
［表紙］縹色卍繋ぎ艶出し表紙
［刊記］①扉「慶応二丙寅歳初夏新刻／坪井信良先生訳述／新薬百品考／原本独逸歇儁貎廉涅兒氏著／紀元千八百五十七年鏤行

初白楼蔵梓」。②後付「陸軍医部／海軍病院／医学校　官版御用所／（中略）／書肆　東京馬喰町二丁目　英蘭堂　島村利助」

［印記］①③扉魁星印、版元印、①扉「前篇」、①序言一オ「日本政府図書」、一オ「明治九年購求」「内務省図書記」

［蔵書票等］表紙蔵書票「内務省図書／第百四十八番／　部　号／前　後四冊」「衛生局　第七号　保ノ筺」「[…]　冊」（斜線により取消）「和書門／類／二二六三八号／　函／架／四冊」

［刊写］刊

［その他］版心「初白楼藏」。②④後付「英蘭堂発兌書目録（書目省略）」。

〔主な参考文献等〕

東京大学医学部創立百年記念会・東京大学医学部百年史編集委員会編『東京大学医学部百年史』東京大学医学部創立百年記念会、一九六七年。

国立公文書館編『改訂増補　内閣文庫蔵書印譜』国立公文書館、一九六九年初版発行、一九八一年改訂増補版発行。

同『内閣文庫百年史　増補版』汲古書院、一九八六年。

福井保『内閣文庫書誌の研究』青裳堂書店、一九八〇年。

同『内閣文庫本考証』青裳堂書店、二〇一六年。

日蘭学会編『洋学史事典』雄松堂出版、一九八四年。

瀧川義一『木村兼葭堂の蘭学志向　一　語学と本草学を中心に』科学書院、一九八五年。

森潤三郎『多紀氏の事蹟』思文閣出版、一九八五年。

厚生省五十年史編集委員会編『厚生省五十年史（記述篇）』財団法人厚生問題研究会、一九八八年。

新村拓編『日本医療史』吉川弘文館、二〇〇六年。

洋学史学会監修、青木歳幸ほか編『洋学史研究事典』思文閣出版、二〇二一年。

東京国立博物館デジタルライブラリー　https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/3347（令和六年一〇月二二日閲覧）

（調査員）